

# 同時流行を見据えた感染状況に応じた県民への呼びかけ等

第6波、第7波の軽症患者が多いオミクロン株の特性やインフルエンザとの同時流行を見据え、外来患者数を目安に感染状況に応じた外来提供体制の拡充(外来フェーズ)や県民への呼びかけを実施

- 発熱患者が多く発生する流行期に向け、外来提供体制の拡充を準備
- 流行期に、低リスク者が自己検査、自主療養を積極的に活用するよう
  - ①感染警戒期には、抗原検査キットや常備薬の事前準備の呼びかけを実施
  - ②感染拡大期には、低リスク者が自己検査・自宅療養するよう、症状に応じた外来受診・療養を周知

外来フェーズ	感染警戒期	感染拡大期	流行期
平均外来患者数(※)	～約5,000人/日	約5,000人/日～ (第6波ピーク並み)	約9,000人/日～ (第7波ピーク2週前患者数) 最大外来受診想定2.9万人へ順次対応
外来提供体制	地域の実情に応じた輪番制や臨時外来等の <u>設置検討</u>	・発熱外来診療 <u>時間延長検討</u> ・臨時外来等の設置準備	・発熱外来の <u>診療時間延長</u> ・臨時外来の実施
呼びかけの狙い	【事前準備の促進】 ①ワクチン接種の勧奨 ②常備薬・検査キット購入	【重症化リスク別の行動喚起】 高リスク者：速やかな受診 低リスク者：自己検査・自宅療養	【重症化リスク別の行動の徹底】 高リスク者：速やかな受診 低リスク者：自己検査・自宅療養
県民へのメッセージ	・ワクチン接種の推奨 ・ <u>常備薬、抗原検査キットの家庭備蓄の呼びかけ</u>	左に加えて ・重症化 <u>リスクの低い軽症者</u> (13才～64才)へ <u>自己検査、自主療養の呼びかけ</u>	・重症化 <u>リスクの低い軽症者</u> (13才～64才)の <u>自己検査、自主療養の更なる協力依頼</u>

※ 目安となる平均外来患者数(日単位)は、各週の新型コロナウイルス患者とインフルエンザ患者定点報告より推計(毎週公表)

外来フェーズの外来患者数は目安であり、医師会等を通じて診療現場の意見も踏まえて切替

# 新型コロナ・インフル同時流行に備えた外来受診イメージ

- ① 新型コロナ・インフル同時流行時は、高リスク者等に医療機関の受診を重点化しても **外来受診見込**は、**1日あたり2万5千人～2万9千人**と想定
- ② 発熱外来（約1,800箇所）の**診療能力推計**では、**1日あたり2万4千人**（1時間あたり4人診療試算）

## 同時流行時の外来受診イメージ

区分	受診・検査
届出対象となる患者 (65歳以上等、重症化リスクあり) 小学生以下の子ども	高リスク者等は 速やかな受診
それ以外の患者	自己検査を推奨 陰性の場合には医療機関受診 陽性の場合には自主療養 (症状が重いと感ずる場合は受診)

## 流行期最大外来受診想定数 1日あたり

自己検査率	50%想定	95%想定
高齢者等 小児患者	1.4万人/日 (外来受診)	
それ以外	1.5万人/日 (外来受診)	1.1万人/日 (外来受診)
<b>外来受診①</b>	<b>2.9万人/日</b>	<b>2.5万人/日</b>
自己検査の 陽性者②	5千人/日 (自主療養)	9千人/日 (自主療養)
患者見込①+②	3.4万人/日	

## 現行の発熱外来の診療能力試算

診療能力の算定（1時間当たり4名診療、診療所は1診・病院は2診(単位:人)

区分	月	火	水	木	金	土	日・祝
診療所	22,537	20,913	19,222	13,968	22,437	12,178	1,170
病院	9,876	9,484	9,664	9,224	9,800	5,084	2,316
総数	32,413	30,397	28,886	23,192	32,236	17,262	3,486

自己検査50%活用の場合  
**5千人/日の診療能力拡充が必要**

**1週間平均1日あたり  
現行診療能力推計  
平均2.4万人/日**